バカとテストと召喚獣　氷の王と炎の魔人

ブルー・クローバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バカとテストと召喚獣　氷の王と炎の魔人

【Ｎコード】
Ｎ５０３５Ｍ

【作者名】
ブルー・クローバー

【あらすじ】
ここ文月学園は『試験召喚システム』を導入したただ１つの試験校である。氷神彗（ひがみけい）はそこに通う高校２年生である。そして彼は様々な事件、出会いを繰り返し、自分の本質、前世の記憶を思い出していく。それが良い記憶ではなくても――彼は日常のドタバタでそんなことなどどうでもよくなっていくのである。

［プロローグ］変わらぬ日々

「じゃあ、俺達は行くわ」

「じゃあな、炎城、それに――――――」

「行ってしまったか・・・・・」

「また、会えるといいな」

◆　　◇

◆

「という夢をみたんだ」

他愛もない世間話をしながら、学校に行く。今日は少し出るのが早かった。別に何も無いのだが。

「ふーん。でその炎城ってのは誰なの？」

そう問いかけてくるのは不知火暁（しらぬいあかつき）。

「知らん！」

「威張るな。ま、いいや。あ、そろそろ着くよ」

僕らがこの文月学園に入学してから半年が過ぎた。

なぜか暁はソワソワしていた。あ、そういえば今日、試験召喚実習

がある。

「彗、今日持ち物検査あるって知ってた？」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・え？

◆◆◇

くそ、俺が帰ってからやろうと思っていたゲームソフトがとられてしまったぁ！

あの先生、底にあるの見抜きやがった！ま、いいかどうせ安かったし。

「次の授業は試験召喚実習だね！いこうか」

僕たちは少しの期待を持ちながら体育館へ向かった。

［プロローグ］変わらぬ日々（後書き）

初投稿です。
拙い文章ですが、大目に見てやってくださいな。
誤字、脱字を指摘くれるとありがたいです。
感想、意見もよろしくお願いします！

第0問　バカテスト

世界史【問題】

以下の（）にあてはまる歴史上の人物を答えなさい。

楽市楽座や関所の撤廃を行い、商工業や経済の発展を促したのは（）である。

海原廉の答え

『織田信長』

教師のコメント

正解です。特に問題はなさそうですね。

氷神彗の答え

『織田信成』

教師のコメント

それはフィギュアスケートの選手です。でもその人子孫らしいですね。

不知火暁の答え

『織田先輩』

教師のコメント

先輩って何なんですか。

清水美春の答え
『美波お姉さま』

教師のコメント
その時代に島田さんは生きていません。

人物紹介１（主人公設定）

氷神彗（ひがみけい）

性別　男　身長　１７２ｃｍ　体重　５９ｋｇ

趣味　ゲーム　小説　人間観察（だが何もわからない）

学力　１４００~１７００点くらい、ちゃんと勉強すると２０００点は普通に超える。

得意教科…数学、理科科目、英語Ｗ

苦手教科…日本史、世界史、保健体育、

簡単にいえば計算などが得意で暗記が苦手

容姿　黙っていればそれなりにハンサム。

最近、ジーンズが気に入っている。

性格　ときどき、無性に正義感に駆られる。

外見に似合わず、穏やかだが調子に乗ると人の話に茶々を入れまくる。

突飛な発言が多い。明らかに挙動不審の時が多い。オタク。

特技　これといった凄いものはないが、気配感知、誘導尋問スキルは高い。

氷神クンの召喚獣&追記（ネタバレ含む）

見た目　余計な装飾、防具などがあって少々動きづらい。
　武器はヴォーパルソード（氷の剣…テイルズのマテリアルブレードの片割れ）
　鎧は下半身に重点を置いている。なので上半身の装甲は薄い。

腕輪の能力　『絶対王政』？？？自身の半径５ｍ以内であれば、他人の召喚獣を自由に動かせる。
点数消費は秒×１０点。何故か点数が４００点以下でも発動可能。
もう一つ腕輪が付いているが、『封印』されているので、使えない。

追記（召喚獣ではなく氷神）
　たまに眼鏡をかける（もの凄く似合ってない）
　短距離は早いが、長距離は苦手。
　暇な日はゲーセンにいることが多い。
　勉強はあまりしない。ヤバいと思った時にしかしなかったり。

人間関係
不知火暁　中学校が同じ。一緒に登校する仲。
海原廉　小学校からの仲。一緒に登校している。
原作人物との人間関係
吉井明久　中学校が同じ。一緒に泊まりでゲームするほどの仲。
坂本雄二　高校一年の春、明久を介して知り合った。毎日脳内花畑

に思われている。

清水美春　高校一年の春、同じクラスで知り合った。氷神は唯一、美春が信頼できる人物。

彼ら以外の登場人物は氷神が2年になると知り合う

氷神クンの召喚獣&追記（ネタバレ含む）（後書き）

何となく自分、話云々よりこういう方に妄想スイッチはいるんで？？？

という言い訳。の１週遅れ。

頑張って週２で更新するぞー！

【プロローグ】感じる少年

『――試獣召喚！』

体育館では次々に声が響く。

『次、姫路瑞希。前に出なさい』

『は、はいっ』

「姫路さんが出るね。どういう召喚獣を出すのかな？」

「ああ、そういえば、姫路って学年で五本の指に入る成績なんだよな」

「そそ。一位二位を争う学力を持ってる姫路さんが、どんな召喚獣を出すのか楽しみだよ」

ふわふわな髪、可愛らしい顔立ち、自己主張の激しい胸。

姫路さんは見た目でも学年で五本の指に入るだろう。

『こ、こうですか？　試獣召喚っ（サモン）』

すると、彼女の足元に幾何学的な魔法陣が浮かび上がった。そして現れる召喚獣。

『流石姫路さん、あんなゴツい大剣持ってる召喚獣、他にはいなかったよ』

辺りからそのような声がちらほらと聞こえてくる。

『Cクラス　姫路瑞希　ＶＳ　Cクラス　古河あゆみ
総合科目　３９４３点　ＶＳ　１２６４点
』

さすが姫路さん、俺の2、3倍は点数がある。並の生徒じゃ一瞬でやられるだろう。

「すごいね。点数も見た目も」

確かに、何度も言うが、見た目は大剣を軽々と持ってるくらいだし、点数もかなり高い。
こんな点数の人とは正直戦いたくない。まあでもこんな点数取れるのは学年で１０人いるかいないかだけど。

――そんなこんなで何十分か経って…

「次！氷神と不知火！」

「「はい！」」

◆　　◇

◆

「結局、取られたものはゲームと小説だけだったな」

午後のＨＲが終わり、帰る前に少しばかし教室で談笑していた。

「そうだね。でも特に凄かったのは…」

「ただお姉さまのプロマイドや抱き枕カバー、１／６４フィギュアとかｅｔｃ．．．」

隣で取られた物を延々と言っているのはクラスメイトの清水美春。

彼女は隣のクラスの島田さんが大好きな（ＬＯＶＥの方）レズっ娘なのである。

「…さすがに、それは持ってきすぎじゃないか？」

「いいえ！これでもほんの一部ですよ！」

彼女の言う全部を見てみたい。

「よお！ごめん待ったかい？」

来たのは、海原廉（うなばられん）、別に待ってないけど。

「いや、ただ話してただけだし、そろそろ時間だから帰るか～」

◆

◆

◇

「もし、彗が文月行かなかったらどこ行ってたの」
暁が尋ねてきた。
「第一志望が長点上機学園で第三志望が私立碧陽学園で第四志望が聖エルミン学園だったかな」
「第一志望に落ちて、文月に来たと」
「そういうこと」
「私は、ここ一択だったなぁ。面白そうだったし」
「俺の志望校を聞き「どうでもいい」言わせてくれよ…」
「では、私はこっちですので」
清水は駅の方角に歩いていった。
「うん、じゃーねー」
俺たちは清水に手を振る。
「では。また明日です」
清水も手を振り返してきた。
「なんかこのまま帰って寝たら半年間過ぎそうな気がするんだが…？」

「何言ってるの？」

「別に何でもないけど省略される気がする」

「俺空気…」

そんなこんなで帰宅したが氷神はあることに気がついた。

（あれ、ここら一帯、時空歪んでね？）

日常茶飯事なので、特には気にしなかった。

［プロローグ］感じる少年（後書き）

…筆が進まないなー。なんでだろー。

ともあれ更新です。

第1問　バカテスト（前書き）

試験的にオリジナルを入れてみました。
はたして珍解答を作れるのか…

第1問　バカテスト

？？？　　【問題】

人工衛星「おりひめＩ号」に搭載されている世界一の演算能力を持つ超高度並列演算処理器の名称を答えなさい。

不知火暁の答え

『まったく聞いた覚えがないです』

海原廉の答え

『電卓』

清水美春の答え

『　　』（無記入）

教師のコメント

すみません。こちらの手違いでよく分からない問題が混入してしまいました。

尚、こちらの手落ちなので無記入の人も全員正解にします。

氷神彗の答え

『樹形図の設計者　カタカナ表記でツリーダイアグラム』

教師のコメント

なんとなく君の解答が合っていそうな気がします。

［プロローグ？］　招いてもいない客

俺は誰もいない家に入り、寝ようとした…だが……

あの居間にいる透明がかった物体はなんだ…しかも動いている。

俺は恐る恐る手を伸ばし、ソレに触れてみた。

すると、ソレは反応した。まるで俺を待っていたかのように。

ソレは話しかけてきた。直接脳に話しかけてくる。

（よう！お前を待っていたぜ）

「問おう。お前は何者なんだ、何故ここにいる」

（てか自分、何故そんな冷静なん？常人ならもっとド派手なリアクションとってるさかいゆーのに）

「いいだろ…感性は人それぞれなんだから」

（まっ、ええわ、そしてワイの話をよく聞け）

「ああ」

（、とその前にお前の質問の解答。まず一つ目、これは言えねえな。見た目だってほら、よく見えないやろ？）

「ああ」

（自分つまんない返答ばっかしやがって。まあええわ。二つ目の質問についてなんやけど、よく聞いてな）

「ああ」

（無表情ウザッ！…ワイが何故ここに来たかというと、お前に行って欲しい所があるんや）

「その場所とは？」

（学園都市や、お前も知ってるやろ？）

「ああ、超能力者がいっぱいいる街だろ」

（そうや、じゃついてきてもらおうか）

「もう7時前だし、あまり遠出はしたくないです」

（これは決定事項なんや、来いったらこい！）

「明日学校だし」

（そんなもんあとで修正出来る！）

「本人の意志無視かよ…」

この後起こった出来事は、俺の人生を大きく揺さぶるものだったが、まあその話はまた後でな。

［プロローグ？］　招いてもいない客（後書き）

だんだん投稿するの遅くなってるし、行数少ないし…
似非関西弁もどうにかしないと…
次からはちゃんとします。
次回から試召戦争編です。
何か戦争にアレンジを加えたいと思ってます。
１つは考えてあるのですが、
『こういうのいいんじゃない？』
というのがあれば一言に宜しくお願いします。
夏休みももう終わりか…

第2問　バカテスト（前書き）

なーんか、風呂敷広げすぎた予感…

第2問　バカテスト

化学　　【問題】

問　以下の問に答えなさい。

『調理の為に火にかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。この時の問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を一つ挙げなさい』

氷神彗の答え

『問題点……マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応し、白い火花を上げる為危険である点。
合金の例……ステンレス』

教師のコメント
正解です。他の正解の例としてはジュラルミンが挙げられます。

不知火暁の答え

『問題点……マグネシウムの炎で家が燃える恐れがある点。』

教師のコメント
家が燃えるなんて、なんて恐ろしい…

海原廉の答え

『合金の例……ガンダニュウム合金』

教師のコメント

ここを敢えてガンダリウム合金にしなかったのはマニアですね。

【試召戦争編】自己紹介と失態とDクラス

この気持ちはなんだろう
目に見えないエネルギーの流れが
大地からあしのうらを伝わって
ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ
声にならないさけびとなってこみあげる
このきもちはなんだろう

★　★

「……っと」

俺は坂を駆け上がり、学校へと向かう。

「時間がヤバいな…」

なんだってんだ。新学期なのに遅刻しそうって、俺。
とかなんとか思いつつ、校門の前までやって来た。するとそこにはガタイのいいいかにもスポーツマン風の男が立っていた。

「おはようございます西村先生、なにやっているんですか？……
あ、そうか」

「早くしないとＨＲに間に合わないぞ、ほれ封筒だ」

「ありがとうございます」

俺は封筒の中にある紙を取り出し、クラスを確認した。

『氷神彗……Dクラス』

俺の高校生活二年目が今始まった。

★　★

「Dクラスはここか…」

俺は静かにドアを開けた。するとそこには見慣れた三人の姿があった。

その三人とは不知火暁、海原廉、清水美春だ。するとこちらに気づいたのか暁が話しかけてきた。

「また同じクラスだね！あ、因みに私がクラス代表だから」

「おお、すごいな」

ここでいうクラス代表は試召戦争というこの学校の伝統行事？の一つに大きく関わる存在だ。試召戦争でいうクラス代表はかなり分かりやすくいえばチェスのキング的存在だ。もしそのクラス代表が負けてしまったら、そのクラスは負けになる。

「不知火がクラス代表だと心強いね」

そういって、話に入ってきたのは廉。

清水に至っては

「どうしたらお姉さまにまとわりつくあの豚野郎を排除出来るのでしょうか」

と不吉な事を呟いていたので、聞かなかったことにしてあげた。

「ＨＲなので席について下さい」

と先生の声。空いている席が俺の席か。

「では、右端の生徒から自己紹介をしてください」

「私の名前は椎名忍（しいなしのぶ）だ。特技は隠密と変わり身だ。以後宜しく頼む」

春でもマフラーを付けているのが椎名さんか、冷え性なのか？

「俺は藤巻洋平（ふじまきようへい）だ。泳ぐことは苦手だが麻雀は得意だ」

と、着実に俺の番が迫ってきている。俺、自己紹介苦手なんだよなぁ…とりあえず無難な方がいいのかな…

「海原廉です。ガンダム、その他諸々などアニメが好きです。１年間宜しくお願いします」

うんどうしよう、次俺だ。なにも考えてない…てかなんで俺只の自己紹介なのにこんなに焦ってるんだろう。あれか？何事も第一印象が大事って奴か？まあ、やるだけやってみるか！

「俺の名みゃ…」

ヤバい。いきなり噛んだ。気を取り直してもう1度。

「俺の名前は氷ぎゃ」

……orz

no，thank you慰めなんていらないよ。だって今2度も噛んでしまったから。

「……氷神彗デス。ヨロシクオネガイシマス…」

「…では最後にクラス代表の不知火さん前にでてください」

「はい」

「私がこの1年間クラス代表を務めさせていただきます、不知火暁です。ここで1つ提案があります」

不知火が一つ息をおいて、こう告げた。

「Aクラスに試召戦争を仕掛けようと思う」

彼女は口元をニヤリとさせながら、そう告げた。

【試召戦争編】自己紹介と失態とDクラス（後書き）

氷神「さていよいよ始まりました本編」
不知火「原作とどう変わっていくんだろうね」
氷神「俺は、なるべく原作通りで行こうと思っている」
不知火「まあ、無理に物語に変化を加えても後々困るしね」
明久「じゃあ、僕達に負けるのも？」
氷神「……ああっと時間になってしまいました、今日はこれにて」
雄二「…その返しは無理がありすぎるぞ彗…」

第3問　バカテスト

国語　　【問題】

問　以下の意味を持つことわざを答えなさい。
『（1）得意なことでも失敗してしまうこと』
『（2）悪いことがあった上にさらに悪いことが起きる喩え』

不知火暁の答え
『（1）弘法も筆の誤り』
『（2）泣きっ面に蜂』

教師のコメント
はい正解です。簡単すぎましたか？

海原廉の答え
『（2）負の連鎖』

教師のコメント
それはことわざではありません。

氷神彗の答え
『（1）弘法さんの筆を盗ったのは誰ですか？正直に言うと先生怒らないぞー♪はい先生僕がやりました！テメエふざけんなよ！ミンチにしてやろうか』

教師のコメント

解答欄に物語を作らないでください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5035m/

バカとテストと召喚獣　氷の王と炎の魔人

2011年10月7日10時52分発行